

構造部門（振動） ―パネルディスカッション

過去の地震からの学び（研究）を活かすために ―観測や被害原因の分析と設計への展開

[資料あり]

9月12日（火）13:30～17:00 オンライン 第D室

司会 高井伸雄（北海道大学）

副司会 柏 尚稔（大阪大学）・佐藤浩章（電力中央研究所）

記録 高橋広人（名城大学）

1.主旨説明 菊地 優（北海道大学）

2.主題解説

①震源像および震源モデルの変遷と最新の知見

浅野公之（京都大学）

②地震観測記録に基づいた伝播経路のモデル化の変遷と最新の知見

佐藤吉之（竹中工務店）

③堆積地盤の地震波増幅・伝播特性に関する最新の知見

鈴木晴彦（応用地質）

④建物の震害に動的相互作用はどのような影響を与えているか

勝二理智（大林組）

⑤地震観測記録に動的相互作用はどのように表れているか

東城峻樹（竹中工務店）

⑥設計に動的相互作用はどの程度展開されているか

中溝大機（日建設計）

3.討論

4.まとめ 藤森健史（大林組）

近年、地盤や建物基礎での強震動観測記録が蓄積され、地盤変状や杭の損傷といった地盤基礎系の被害と地震動特性との関係についても明らかにされつつある。また、地盤と基礎を一体化したモデルの振動実験が実施され、入力地震動の強さのレベル等とモデル各部位の応答との関係についても評価されてきている。

本パネルディスカッションでは、強震動の発生源から基礎への入力動に至る地盤震動特性と入力動による建物基礎や周辺地盤の応答特性に関して、観測・実験に基づく分析事例と

数値計算に基づく予測や検証事例を中心に解説を行う。さらに、これらの研究が現行の耐震設計や地域の地震被害想定へどのように活かされてきたのかについても紹介する。最後に、さらなる被害軽減に向けて、最新の研究成果を耐震設計に今後、どのように活かすべきかについての討論を予定している。耐震分野に携わる各方面の設計者、技術者および研究者の参加を期待する。